

2015アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [七尾市立小丸山小学校] 担当教諭名 [田口 優] (3年1組 33名)

交流相手国 [アゼルバイジャン]

海外学校名 [Ankara Lyceum] 担当教諭名 [Tamilla Namatova]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	アートマイルプロジェクト	25

■作品について教えてください。

題 (テーマ)	Environment
絵に込めたメッセージ	「アゼルバイジャン」と「日本」。それぞれの環境(Environment)をテーマにした国際交流を通して、自分たちの住んでいる環境とは異なる環境が世界には存在すること、そしてそれぞれの環境どちらも地球の環境であり、大切にしなければならないという思いを絵に込めて壁画を製作した。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
このアートマイルプロジェクトでの経験を通して、協働しながら、みんなの考えを尊重し、よりよい考えを導き出すことが少しずつできるようになっていった。相手国であるアゼルバイジャンの小学生との関わりだけでなく、同じ学級の友だちとの関わりも充実していった。また、自分から進んでアゼルバイジャンや近くの国のことを調べてくる児童もおり、アゼルバイジャンとそこに住む小学生について知ろうとする意欲も高まったのではないかと考える。	アートマイルプロジェクトを子どもたちが進めるにあたって、コミュニケーションがとても重要であった。総合的な学習の時間だけではなく、他教科の授業においても子ども同士のコミュニケーションスキルの向上を図り、より横断的な総合的な学習の時間にしていく必要があると感じた。また、外国の子どもたちと交流するには英語でのコミュニケーションも必要であった。年間指導計画の中で英語のコミュニケーションの力をどのように育むか、計画的に実践していく必要がある。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手国や世界に対しての意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
アートマイルに取り組むまで、ほとんどの児童は世界と関わった経験がなかった。アートマイルの活動を通して、多くの児童は初めて世界とつながり、アゼルバイジャンとつながることができた。児童の世界に目を向ける意識、世界のことを知ろうとする意識は確実に高まったと考える。	壁画が帰ってきたとき、その絵や一緒に送られてきた相手国からの贈り物を見て、改めて日本とは異なる文化や環境であることを実感した。この活動を通して、さらにアゼルバイジャンのことを知りたくなり、他の国とも交流学習を行ってみたいと感じるようになった。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
自己紹介	9月	これまでに学習してきたローマ字を使い、自己紹介カードを作成した。そのカード首かけた写真を撮り、フォーラムで自己紹介を行なった。	相手国(アゼルバイジャン)の小学生に自己紹介をするという明確な目的があったことで、児童は意欲的にローマ字の学習に取り組んでいた。相手国からの自己紹介が返ってくると、児童は自分たちが国際交流を行なっているということをより実感していた。	総合3 国語3
テーマ学習	5月 ～ 10月	国際協働学習をスタートするにあたり、世界のこと・相手国(アゼルバイジャン)のことを調べる学習を行った。大学にも協力していただき、世界の人口や貧富差などについてのワークショップを実施した。	世界の様子についてあまり知らなかったワークショップでの世界の人口分布、貧富の分布、言語の分布を知り、驚いていた。そのワークショップを通して、アートマイルの相手国であるアゼルバイジャンについてもっと知りたいという思いを持つ姿が見られた。	総合7
構図決定	10月 11月	キャンパスの分け方や全体のイメージの案を日本側から3種類フォーラムで提示し、相手国(アゼルバイジャン)にどの案が良いかを決めてもらって構図を決定した。	構図を考えるにあたり、児童は「仲がよさそうな絵にしたい」「日本の環境・文化を相手国に知ってもらえるような絵にしたい」という思いを持っていた。その思いを実現するためにはどのような絵にすればよいかを考え、構図の案を作成した。	総合5
壁画制作	11月 12月	日本の環境のことを四季の絵で表すことにし、「春」「夏」「秋」「冬」の4つのグループに分かれて、壁画を制作に取り組んだ。さらにそれぞれのグループの中でも「食べ物」「自然」などの小グループに分け、全員で壁画制作を行なった。	それぞれのグループで色の作り方・塗り方を試行錯誤しながら、創意工夫を凝らして壁画制作に取り組む姿が見られた。壁画制作の間も、「日本のことを相手に伝えるにはどのような絵にすればよいか」ということを学級で話し合いながら壁画を制作していった。	総合8
鑑賞・振り返り	3月	アゼルバイジャンから返ってきたキャンパスと国の品物を児童とともに鑑賞し、日本の文化との違いについて考える活動を行った。	完成したアートマイルを見て、児童は絵の具の使い方が日本とは異なるなどの違いに気付き、本当に国際交流をしたということを実感していた。	総合2

■学習目標(つきたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入(A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え(5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つきたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	A	4	日本の環境・四季のことを壁画にするにあたり、再度日本のことを調べ、日本のことを知ることができた
異文化の理解	A	4	アゼルバイジャンと交流するにあたり、相手国のことを詳しく調べることができた。そこから環境や人口、文化などの違いに気付くことができた

コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	B	3	英語表現がなかなかできない3年生での実践であったため、交流は教師中心のフォーラムで行なった。そのため、仲介に教師を挟んだ間接的なコミュニケーションとなってしまった
情報活用能力 (情報収集・発信)	B	3	図書資料とインターネットを使った調べ活動を繰り返し行ったが、3年生にはキーボード入力が難しく、調べることのできる情報量に限りがあった
人間関係をつくる (学級内・交流相手)	B	3	児童同士が直接的に関わることができなかったため、相手国の小学生との人間関係を築くことが十分にできなかった。学級内では、グループで話し合い、よりよい意見にまとめていこうと意欲的に友だちと関わる姿が見られるようになった。
協働する力 (役割分担・協力)	A	4	壁画を完成させるという共通の目標に向かって、学級全員で時には役割分担をし、時には協力・助け合いながら活動を進めることができた。
学習を追究する意欲	B	3	アゼルバイジャンの調べ活動を行った後、自分でさらに調べて、学級に報告してくれる児童がいた。
表現力 (伝えたいことを絵で表す)	A	4	構図や下書きをもとに、自分たちの伝えたいこと、思いが実現するように試行錯誤しながら壁画を制作することができた
作品を鑑賞する力	A	4	同じ太陽でも書き方が異なることなどから、日本とアゼルバイジャンとの文化や習慣の違いに気付くことができた。